

つぎの文章を読んで、後の問題に答えましょう。

自分しか知らないことを人に説明するのは、意外にむずかしいものです。たとえば、はじめて食べた果物の味を友だちに伝えたいとき、「あまくて、少しすっぱい」と言っても、相手はなかなか思いうかべられません。そんなときに役立つのが、たとえば。

「みかんよりもあまくて、りんごのようにしゃりしゃりしている。」と言われたら、どうでしょう。聞いた人は、自分が知っている味や歯ごたえを思い出しながら、その果物を想像することができそうです。

たとえばよく伝わるのは、相手がすでに知っているものと、新しいものとを結びつけるからです。人は、まったく知らないことを、何もなしところから思いうかべることはできません。しかし、知っているものを手がかりにすれば、そこから少しずつ形を作っていくのです。

ただし、たとえを使うときには、気をつける必要があります。それは、相手が知っているものを選ぶことです。小さな子に、その子が見たこともない物でたとえても、手がかりにならず、かえって分かりにくくなってしまいます。

説明がうまい人は、ただ言葉をたくさん知っているだけではありません。聞く人が何を知っているのかを考えて、その人にとどく橋をかけているのです。

(この問題のための書き下ろし)

問一 たとえがよく伝わるのはなぜですか。「くからです」につづくように、本文から三十字までで書きぬきましょう。

問二 「かえって分かりにくくなってしまいました」とありますが、それはなぜですか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

- ア たとえの言葉が、長すぎるから。
- イ 相手の知らない物でたとえても、手がかりにならないから。
- ウ 小さな子には、果物の味が分からないから。

--

問三 「その人にとどく橋をかけている」とありますが、これはどういうことですか。四十文字までで書きましょう。

問四 この文章の書き方として、いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

- ア たとえを使わないほうがよいわけを、三つならべている。
- イ 果物の育て方を、順番に説明している。
- ウ 身近な例から入り、たとえば伝わるわけと気をつけることを説明して、最後にまとめている。

--